

第 部は、 部（基礎編）で学んだことを基にして、入試で対応できるように実力をつけることをネライとしております。この講座では、テーマ型（課題型）、課題文型、抽象的課題、資料型課題の4つのパターンを学習します。本教材でわかりやすく解説をしますのでしっかり学んで下さい。

7．テーマ型小論文（1） 基礎編

本講座では、テーマ型小論文の書き方を習得します。基本的な書き方は、課題文や抽象的課題でも応用できますので参考にしてください。

テーマ型小論文を書くプロセス

1 与えられた設問の意図を理解する。設問者（出題者）がどのような答案を求めているのかを把握すること。

出題者が何を聞いているのか、どういう答を求めているのかという把握します。

これは、主題把握として最重要です。

2 与えられたテーマ・論点に関して考察を深める。

小論文は、論文の一種です。設問の主旨（課題）を踏まえたうえで、何について書くのか、主題（主張）を明確にすることを心がけます。

3 考察の結果をできるだけ文の形にまとめる。

結論で何を主張するか、なぜそういう結論に至ったのか、という理由付けが重要です。

4 文章構成を組み立てる。

文章構成は序論・本論・結論の三段構成で書くといいでしょう。序論と結論だけを読んで意味が通じることが大切です。

小論文を書くに当たって、最も大事なことは主題（中心になる考え方）の設定です。実力コース6回を受講する中で、しっかりとマスターして下さい。基礎編のおさらいを兼ねて、「主題の決め方」を順次、説明いたします。

2 主題の決め方

本講座のねらい

この講座では、課題を書くための材料集めと、主題（中心になる考え方）の立て方を学び、原稿用紙に書き出す前の主題の立て方を身につけます。

注意

題：書名。解決を求められている事から。

主題：作品の中心となる思想。 広辞苑による

たとえば、夏目漱石の著書「坊ちゃん」は題で、「坊ちゃん」という作品を通じて夏目漱石が考え（主張）を述べるのが主題です。言葉が似ているので混同しないように。

主題を決めるまで

A 与えられた課題から題材を連想する

小論文の題（課題）は、当然ながらその場（受験場）になってみなければ分かりません。題を見て何を書いていいのかわからなくなる人もいます。その場合は、題を自分に引き寄せて、連想すればいいのです。

たとえば「いのちについて書きなさい」または「健康について書きなさい」という題が与えられたとします。この題だけでは何を書いていいのかわからずしてしまいますね。そこで、与えられた課題から主題を導くには、副題になることを連想することです。その方法は、

過去の体験、

友人・知人からの伝聞、

新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどの情報から連想します。

例 いのち・・・「いのちの尊さ」「いのちと平均寿命」「食糧といのち」

健康・・・「健康と食生活」「健康な生活とは」「健康のありがたさ」

副題を考えることは、論を進めていくうえで非常に有効な手段です。自分が何を書けばいいのかわかりとしてきます。主題を考える前に、題目に副題をつけることから出発してみましょう。

課題から主題を連想する際には、自分の志望学部・学科や進路と関連することを連想しましょう。

大切なことは出題者の意図を見抜き、あるいは期待に添うような題材を選ぶことです。

B 主題メモを作る

連想した事からからどういう副題を選ぶかは、小論文の主題に直結しますのでとても重要です。前述の例を順にメモします。この際、単にテーマや話題（題材）を書き並べるだけでなく、何を書くのか、あるいは重要度なども一緒にメモしましょう。

C 主題文（中心文）を書く

自分が、何について、どのように考えているかを書いた文が、主題文（中心文）になります。

例 「健康」についてあなたの考えを述べなさい。

- 1 副題の設定 「健康な生活とは」
- 2 中心文の作成 思いつくことをメモする
 - 肉体的にどこも悪いところがない
 - 精神的に満たされている
 - 余計なストレスがない状態
 - 生活の充実がよい影響をもたらす
 - 目標をもつとイキイキとする など

このようなメモから「私は、健康な生活とは身体に悪いところがなく、精神的にも充実した日々を過ごすことだと思う。」という主題文（中心文）ができあがります。

D 主題を決める

課題からいろいろな事からを連想し、メモも書きましたが、今までの準備は題材の用意に過ぎません。欲張っているいろいろなことを話題にするのではなく、小論文では主題を一つに絞り込んだ方が、自分のはっきりした意見（主張）を述べられます。メモの中から最も適切なものを一つ選んで、その事からや事例について書きましょう。

「順序は 材料 副題 主題文 主題 ですよ」

具体例は自分の持ち物を

小論文は、読み手に自分の意見（主張）を納得してもらおうための文章です。そのためには、客観的な一般論だけを羅列するよりも、自分だけのオリジナルな意見が欲しいものです。体験に基づいた考察をしていることが理想的です。人は何事も自分がその立場にたってみないと、真にその気持ちにはなれないことが多いようですね。ですから、「自分の体験や見聞を通し、この事からについて、このように考察する」と書いていけばいいのです。

- 例
- A 入院生活を経験して感じたこと
 - B 病気がちな周囲の人の話を聞いて感じたこと
 - C 病気をしない自分を振り返って感じたこと

次に、その例からどのようなことを考えたのか書きましょう。主題からそれていないか、確認してください。

- 例 A 日常と違う体験をしたことで、今まで見過ごしていたものが見えてきた。
 B 辛いとき、苦しいときにしてもらった親切は忘れられない。
 C 病気になって、人の優しさに気づいた。
 D 健康であることが当たり前とっていたが、そうではないことに気づいた。
 E 人の幸せや健康を考える仕事に就ける自分は幸せだ。

ポイント 主題文を前提に論を進めていく

主題選択の基準

例にあげたように、いくつもの主題がうかんできます。

主題メモからどういう主題を選ぶか、その基準を以下に示しますので、参考にしてください。

心に強く響くもの。感動があるもの。書き手の感動は読み手にも伝わります。

普遍的な問題や社会的な問題。視野の広さが評価されます。

とりあげた事に対して意見を述べられる。しっかりした考えがあれば、読み手を納得させられます。

その事について知識が豊富なもの。ただし、付け焼き刃的なものは、メッキがはげますから避けた方が賢明です。

受験学部・学科に沿った内容であるもの。

出題者の意図に沿ったもの。

誰もが取り上げる主題は差がつかないから、避けた方が賢明。

上記の過程を応用した小論文の作成を以下に、順序を追って解説します。皆さんもこの手順で、小論文を書いてみてください。必ず合格点の小論文が書けるようになります。

課題例 「現代のコミュニケーションについて」述べなさい。

その1【課題把握】

‘現代’の定義 = 遡っても10年前程度まで

‘コミュニケーション’の定義 = 情報伝達・意思疎通

現代は情報化社会と呼ばれる それ以前とはコミュニケーションのあり方が変質・変容した？

過去の社会におけるコミュニケーションと比較して、現代は何がどのように異なっているのか考察
 またそれをどのように評価するか 出題者の問題意識？

出題者がどのようなネライでこの問題を課したのか、どのような角度・視点からの考察が要求されているのか、といった事柄・論点を明確にする作業です。

その2【考察メモ作成】

現代のコミュニケーションから連想される事項を箇条書きする

- ・ コミュニケーション手段の変化 機会・場面・場所の多様化
- ・ 長所と短所はそれぞれ何か
- ・ コミュニケーションにも限界があるか
 - そもそもコミュニケーションの本質とは何か
- ・ それは現代において変質しているのか、不変なのか
- ・ コミュニケーションに問題点はないのか

箇条書きでかまいませんから、「その1」で掲げた論点から連想できる内容をどんどん挙げていき、自分の答案における論点やキーワードを拾い出しましょう。

その3【結論（または仮説）を作成】

「現代の多様化したコミュニケーションは、人間関係のあり方を大きく変えているが、一方で人間性の喪失や希薄化を招いている。」

「現代のコミュニケーションにおいては、新たな情報伝達手段が登場しているものの、人間のコミュニケーションの本質は不変である以上、旧来の手段も見直していきたい。」

「現代のコミュニケーション手段の進化は、新たな人間関係の構築の可能性を示したものであり、それらをうまく利用することでより快適な生活を送るようにしたい。」

「現代のコミュニケーションがもたらすさまざまな問題点は、従来のコミュニケーション活動では想定できなかったものであり、だからこそ新たな角度から解決する必要がある。」

そのままの文面を使うか使わないかは別として、ここは文章の形でまとめるのがコツです。これを序論もしくは結論の内容にすることによって、本論部分の内容が自動的に規定されていきます。

その4【文章構成（段落構成）を考える】

（第1段落）近年、インターネットや携帯電話の普及によって、人間のコミュニケーションが大きく変化しているように思う。（51字）

（第2段落）たとえば、携帯電話や携帯メールの普及は、時間や場所を気にせずに連絡がとれたり、見ず知らずの人とも簡単に知り合うことができるようになったりした。（71字）

（第3段落）だが、一方でさまざまな問題点を抱えているのも事実である。いわゆるネットの匿名性を利用した犯罪や悲劇は数多い。（54字）

（第4段落）もちろん、これは手段が悪いのではなく、利用する人間に問題があるのだ。だからこそ、我々はもう一度コミュニケーションの本質に思いをはせる必要がある。（72字）

(第5段落)コミュニケーションの本質は相互理解と情報の共有にある。だが、現在のネット上のコミュニケーションではそれらに限界があるではないか。(63字)

(第6段落)人間同士が対面することでなければ伝わらないこともある。便利さと同時に、直接面と向かって会話することの意義も見直したい。(59字)

最終的な答案の形式はあえて掲載しませんが、上記のように段落ごとにまとめるだけで、十分に小論文の基本形態になっていることを理解できるでしょう。また、上記の答案は800字を想定して6段落構成にしましたが、400字程度で書く場合でしたら、形式段落にこだわることなく上記の文章をまとめるだけで解答になるでしょう。上述の合計文字数370字

テーマ型小論文への対策

上に紹介したような段落構成の方法を、出題が予想されるテーマについていろいろ練習しておくといいでしょう。実際に最終的な答案の形を書かないまでも、大筋の方向性を示す練習を積むだけでも、本番に向けての十分な対策になります。

特に、入試直前は一日に何枚も答案を書く練習はできないでしょうし、最終的な答案を仕上げるのは制限時間厳守で書くことに集中することです。どのようなテーマ(課題)が出題されても、合格点が取れるように、上記のような段落構成のパターンを書きためておくことが合格必勝の秘訣です。

テーマ型の課題は、下記(36頁)の題材を参考にしてください。入試に出題される課題ばかりです。

演習課題 下記の課題の中から一つ選んで、600字もしくは800字で書きなさい。

- ・ 高齢社会の中での私の生き方
- ・ 高齢少子社会における看護の役割(解答例あり)
- ・ 少子化社会の問題点

課題一覧

高齢社会と福祉

- ・ 高齢社会の中での私の生き方
- ・ 高齢少子社会における看護の役割
- ・ 少子化社会の問題点
- ・ 福祉について

医療と生命倫理

- ・ 医療と社会基盤
- ・ 医療と社会の関係
- ・ 院内感染
- ・ 臓器移植
- ・ がん告知
- ・ 安楽死は是か非か
- ・ 医療ミス
- ・ 看護における観察の意義
- ・ 看るということ
- ・ インフォームド・コンセント
- ・ 代理母
- ・ クローン

バリアフリーと共生

- ・ バリアフリー
- ・ ノーマライゼーション
- ・ 自立と共生
- ・ ボランティア

現代人の心と健康

- ・ 心と健康
- ・ 健康について
- ・ 生活習慣病
- ・ ストレス社会
- ・ 自殺
- ・ テクノストレス

環境と人間

- ・ 環境問題
- ・ 地球温暖化
- ・ 異常気象
- ・ ヒートアイランド
- ・ ゴミ問題

青少年をとりまく問題

- ・ マナーについて
- ・ フリーター
- ・ 少年犯罪
- ・ 引きこもり
- ・ いじめ
- ・ 現代の若者気質